

枚方市立楠葉西中学校

令和3年5月28日

# 学校だより

枚方市西船橋2-43-1

校長 大西 勝徳 No.5



コロナウイルス感染者数は徐々に減少しているものの、緊急事態宣言が延長されることも予想され、今後も感染対策を十分に講じながら学校生活をすすめていく必要があります。引き続き生徒みなさんの感染症対策の協力をお願いします。特に6月3日の体育祭は2年ぶりの全校生徒による実施となります。

出場競技以外でのマスク着用、応援などで大声を出さない、応援席で密接にならないなどお互い注意しましょう。また、競技で使用するのは消毒を行います。生徒のみなさんも手洗いを頻繁に行ってください。一人ひとりが「感染しない」「感染させない」という意識をもって参加することと、加えて水分補給など熱中症対策も十分に行い、みんなが楽しめる体育祭にしましょう。

～～保護者の皆様へ～～

保護者の皆様には、コロナ禍での教育活動へのご協力とご理解を頂き誠にありがとうございます。先日の「PTAでんごんぼん」にもありましたが、本部役員の皆さんや各委員会の皆様のご協力を頂き、PTA全体会を開催されました。無事に各委員会とも委員長と副委員長が決定されましたのでご報告します。

さて現在、第44回体育祭に向け準備を進めているところであります。当日は各家庭お一人の参観のご協力をお願いするとともに、入校の際の検温と手指消毒もお願いします。また、観戦スペースも限られているため、人と人の距離を保ち、競技している学年の保護者優先など譲り合ってください。今回はシートを敷く等もご遠慮いただくこととなりますが、ご協力よろしくをお願いします。

～～前号 (No. 4) のつづき～～

【今回改訂された「新学習指導要領」のポイント】

新しい学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業とは、これまでのように「教師が教える授業」から「生徒が学ぶ授業」となります。すなわち、主語が教師から生徒となるわけです。では、具体的にどのような授業を目指すのかを以下の4点にまとめました。

- ・生徒が一つ一つの知識のつながりを感じ、「わかった!」「おもしろい!」と生徒自身が思える授業
- ・生徒自身が見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業
- ・生徒たちが周りの人たちとともに考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
- ・生徒自身が自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

このような授業を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、生徒たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けられるようになることを目指していきます。

また、(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力等 (3)学びに向かう力、人間性等の「三つの柱」で示された「新しい時代」に必要な「資質・能力」を育成することとされました。

従って、今年度からの「通知表」では各教科ともに、以下の3つの観点で目標の様子を表すこととなります。参考までに昨年度までは、(1)関心・意欲・態度 (2)思考・判断・表現 (3)技能 (4)知識・理解の4観点でした。 \*裏面に続く

### (1) 知識・技能

「何を知っているか、何ができるか」ということです。各教科等における知識及び技能の習得状況について評価するとともに、これまで学習した知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

これまでのように、1問1答形式で測るような単純な知識だけではなく、他の教科の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。

そのためペーパーテストにおいては、出題方式が工夫されることとなります。単なる知識を問う問題に加えて、深い理解を試す文章題を使うなど、応用的な部分も含まれることとなります。

また、教科によっては実技や実験などによる評価を行うなど、教科特性に合わせた適切な評価も重視されることとなります。

### (2) 思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。現代社会での「生きる力」の中でも特に重視されている問題解決能力に関する力と言えます。

従って、「思考・表現・判断」の観点では、「知識・技能」に比べてより広い力を評価することになります。各教科での学びの中で課題や問題に向き合って解決していく能力だけでなく、級友と協力しながら問題解決の糸口を見つけていく力など幅広い能力が評価対象になります。自らの思いを表現していく能力も評価されます。

そのため、具体的な評価方法はペーパーテストに限られるわけではありません。グループでのディスカッションや発表、レポートなど、各教科の特性に合わせて評価方法が工夫されます。

### (3) 主体的に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする粘り強い取組の中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。これまでの「関心・意欲・態度」の評価観点に近いものですが、評価の軸はこれまでとは違ったものとなります。

「関心・意欲・態度」は、どうしてもノートの取り方や提出物、授業での発言など、生徒の行動による部分や形式的なものによって評価していました。

しかし、「主体的に学習に取り組む態度」においては、さらに深い部分を見ていくこととなります。各教科の内容を理解するために、生徒が「いかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているか」という部分を評価していくこととなります。

\*以上の3つの観点別学習状況を3段階（A「十分に達成している」、B「おおむね達成している」、C「努力を要する」）で評価し、さらに3つの観点別学習状況の評価の結果を総括する評定として、5段階評定（1～5）で評価します。

また、日頃の学校生活の中でABCではなく、一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況、努力や工夫などを積極的に認め評価し、自信や意欲につなげる肯定的評価をし、日常的に伝えていきます。